



特区内地院の僧侶も出勤し、大勢が参拝された

沖繩別院 宗祖親鸞聖人報恩講法要

特区内の僧侶・門徒ら別院に集う



浄土真宗本願寺派 発行 本願寺沖縄別院 (浦添本願寺)
発行人 中岡 順 忍
〒901-2132 沖縄県浦添市伊祖5-10-1
電話 (098) 877-3276
ファックス (098) 877-4242
mail ameku2182@yahoo.co.jp

員・亀原了溪さん、浄光寺衆徒・宇垣哲さんが結果 出勤されました。結果出勤の3名は、別院が毎月開く勤式練習会(お経の練習会)に10月から参加して練習をかさね、このたびはその成果を十分に発揮されました。

本堂には特区内から大勢のご参拝をいただき、皆さんともにお勤めしました。

読経後、中岡順忍輪番による『御俗姓』の拝読、ならびに挨拶がありました。

ご法話は奈良教区吉野西組圓光寺住職の和氣秀剛師を講師にお招きしました。和氣師には2020年度の報恩講法要にご出講を依頼して



和氣師のご法話の様子



講師の和氣師

いただきました。大変有意義な時間を共に過ごさせていただきました。

いしましたが、新型コロナ感染拡大により2年連続で出講中止となり、このたびようやくお話を聞かせていただきました。

最後に報恩講の歌を斉唱、そして和氣師・参拝の皆さんとお齋(昼食)をいただき、大変有意義な時間を共に過ごさせていただきました。

納骨堂総追悼法要

2月6日(月)、沖縄別院は午前10時と午後2時から、天久礼拝所と久米島布教所では正午から、「納骨堂総追悼法要」をお勤めしました。

沖縄では今も旧歴のお正月を祝う風習が残っていて、「あの世のお正月」とも言われる旧暦1月16日には多くの方がお墓参りをされます。今年は2月6日。沖縄別院では納骨堂にお参りされる方々に仏



さまとのご縁を深めていただきました。今年も新型コロナウイルスの感染状況が落ちついてきたこともあり、多くの方が法要にお参りされました。

沖縄ではお墓参りの際、墓前にビニールシートなどを敷いてお供え物をみんなていただく風習があります。別院の納骨堂でも以前はよくその光景が見られました。

しかし、今年も感染防止のため堂内での飲食はご遠慮いただき、手洗い・消毒を励行しました。

誰もが気兼ねなくゆっくり参拝できる日が来るのが、待ち遠しいばかりです。



多くのご参拝者にご法話する中岡輪番



コロナ禍以降、久しぶりに団体参拝いただいた真宗教団連合の皆さん



1月24日(火)、真宗教団連合の第39回中央研修会(沖縄開催)の参加者(43名)が沖縄別院に参拝されました。コロナ禍以降、な

このように大勢の団体参拝で本堂が満堂になるのは久しぶりのことでした。

中岡順忍輪番が沖縄での真宗の歴史や開教の歩みなどについてお話ししました。

沖縄別院では、全国の皆さんのご参拝をお待ちしております。





講師の福間師

僧侶研修会 常例法座

福間義朝師をむかえコロナ禍の信心をうかがう

でオンラインによる行事が増えた話を皮切りに、参加者から様々な質疑を受けてお話しされました。参加者からは「沖縄はお葬式・ご法事がとても多い地域ですが、悲しみの場にはどんな法話がふさわしいと思われますか」「ご法話の時、話す側に情熱がないと相手に伝わりにくいと実感しています。



中岡団長によるあいさつ

2月11日(土)午後7時、沖縄別院本堂において沖縄特区布教団主催「僧侶研修会」を開催しました。開会式では中岡順忍布教団々長が挨拶をしました。講師には福間義朝師(備後教区世羅組教専寺住職)をお招きし、「コロナ禍の中で」と題してご講義いただきました。福間師はコロナ禍



福間師による僧侶研修会の様子

先生はどんな工夫をされていますか」など具体的な質問がありました。翌12日(日)午前10時から常例法座にも引き続き福間師をお招きし、ご法話いただきました。福間師は「親鸞聖人の時代も疫病は蔓延しました。もし、

コロナ禍に親鸞聖人がおられたら、どういう思いで生きられたでしょうか」と問いかけられ、「仏恩報謝、申し訳ない、有り難いと生きることが大事です」と締めくくられました。最後に、新しい「領解文」(浄土真宗のみ教え)を参拝の皆さんとご唱和し、講師・皆さんも共に茶話会で歓談を楽しみました。常例法座に県外から講師が来られることは少なく、多くのご参拝をいただきました。



ご法話に聞き入るご参拝の皆さん



楽しい話に花が咲く茶話会



2022 除夜会 元旦会 2023

沖縄別院の除夜

昨年12月31日(土)、沖縄別院と久米島布教所において午後11時30分から除夜会法要を修行了しました。長引く新型コロナウイルス対策として今年も規模を縮小し、参拝の皆さんにはマスクを着用いただき、アルコール消毒を励行しての開催となりました。雨が続く年末でしたが、大晦日は雨雲なく冷え込みも弱まり、沖縄別院は約500名、久米島布教所には約200名と大勢のご参拝をいただきました。別院では、除夜会法要後、中岡順忍輪番が新年を迎えるにあたってご挨拶を行い、除夜の鐘を撞き始めました。ご参拝の皆さんには長い列にお並びいただき、それぞれの思いを胸に鐘を撞かれました。昨年に引き続き、仏教婦人会の皆さんのお手伝いにより、鐘撞きに來られた方に温かい飲み物と、参拝記念としてカレンダー、お子さんにはお菓子の詰め合わせをお配りし、午前2時頃に終了となりました。久米島布教所では、職員のお勤め後、年明けのカウンタウンを行い、午前0時に鐘を撞き始めました。今回も関係者の方々にお手伝いいただき、大人にはお屠蘇を振る舞い、別院同様カレンダーやお菓子、みかんをお渡



久米島布教所の除夜

しました。ご参拝の皆さんは新年に思いをはせながら笑顔で鐘を撞き、午前1時すぎには参拝者も落ち着いて終了となりました。